

2025年3月期 決算補足資料

株式会社ハマキョウレックス

東京証券取引所プライム市場：9037



- I. 2025年3月期 決算概況
- II. 2026年3月期 計画
- III. 2025年3月期 決算実績
- IV. 近物レックスの現況と今後の戦略
- V. 参考情報

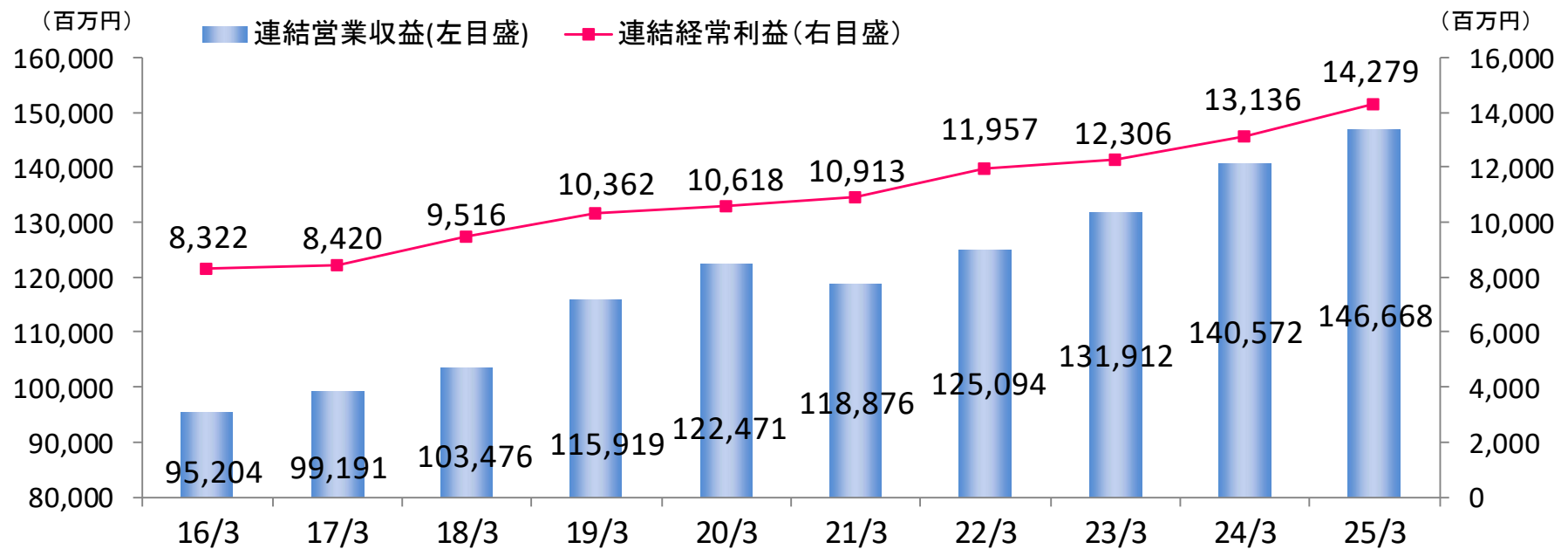
I . 2025年3月期決算概況

I-1. 2025年3月期の業績

営業収益は、1,466億 68百万円（前年同期比 +4.3%）
経常利益は、142億 79百万円（前年同期比 +8.7%）の増収増益

項目	対前期比	対計画比	対前期比増減要因
営業収益 146,668百万円	+6,095百万円 (+4.3%)	+668百万円 (+0.5%)	・物流センター事業での運営の充実と新規稼働したセンターが順次業績に寄与 ・M&A効果
営業利益 13,213百万円	+644百万円 (+5.1%)	+313百万円 (+2.4%)	・物流センター事業で生産性向上及び収益増加 ・M&A効果
経常利益 14,279百万円	+1,143百万円 (+8.7%)	+479百万円 (+3.5%)	
親会社株主に帰属 する当期純利益 8,931百万円	+625百万円 (+7.5%)	+331百万円 (+3.9%)	・特別利益の発生 固定資産売却益

I-2. 業績推移



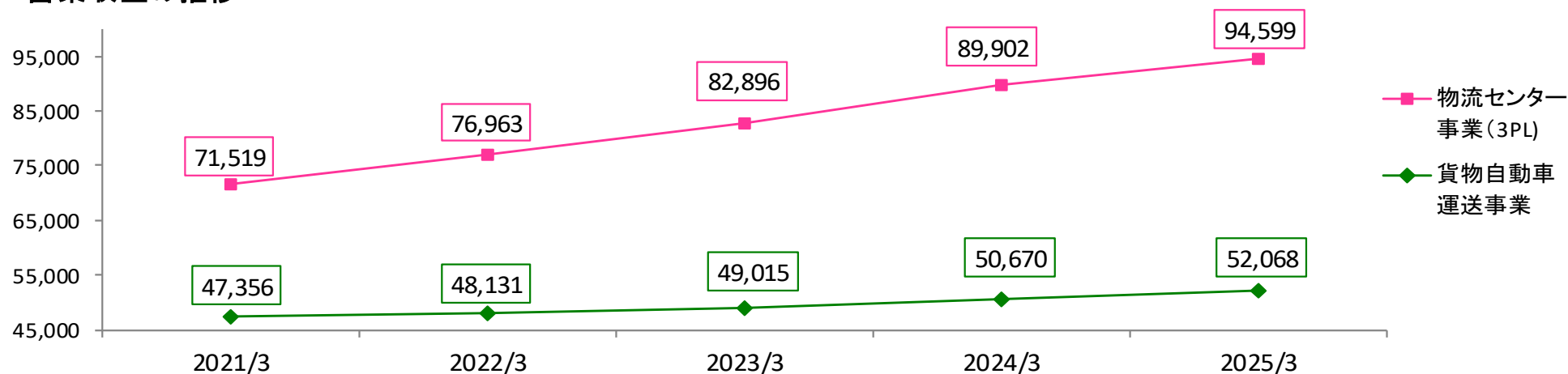
	連結業績
営業収益	増 収 (過去最高)
営業利益	増 益 (過去最高)
経常利益	増 益 (過去最高)
親会社株主に帰属 する当期純利益	増 益 (過去最高)

I-3. セグメント情報の推移

(百万円)

		2021/3 (構成比:%)	2022/3 (構成比:%)	2023/3 (構成比:%)	2024/3 (構成比:%)	2025/3 (構成比:%)	増減 (増減率:%)
物流センター 事業(3PL)	営業収益	71,519 (60.2%)	76,963 (61.5%)	82,896 (62.8%)	89,902 (64.0%)	94,599 (64.5%)	+4,697 (+5.2%)
	営業利益	8,243	9,310	10,015	10,641	11,734	+1,093
貨物自動車 運送事業	営業収益	47,356 (39.8%)	48,131 (38.5%)	49,015 (37.2%)	50,670 (36.0%)	52,068 (35.5%)	+1,398 (+2.8%)
	営業利益	2,314	1,798	1,529	1,923	1,457	△465

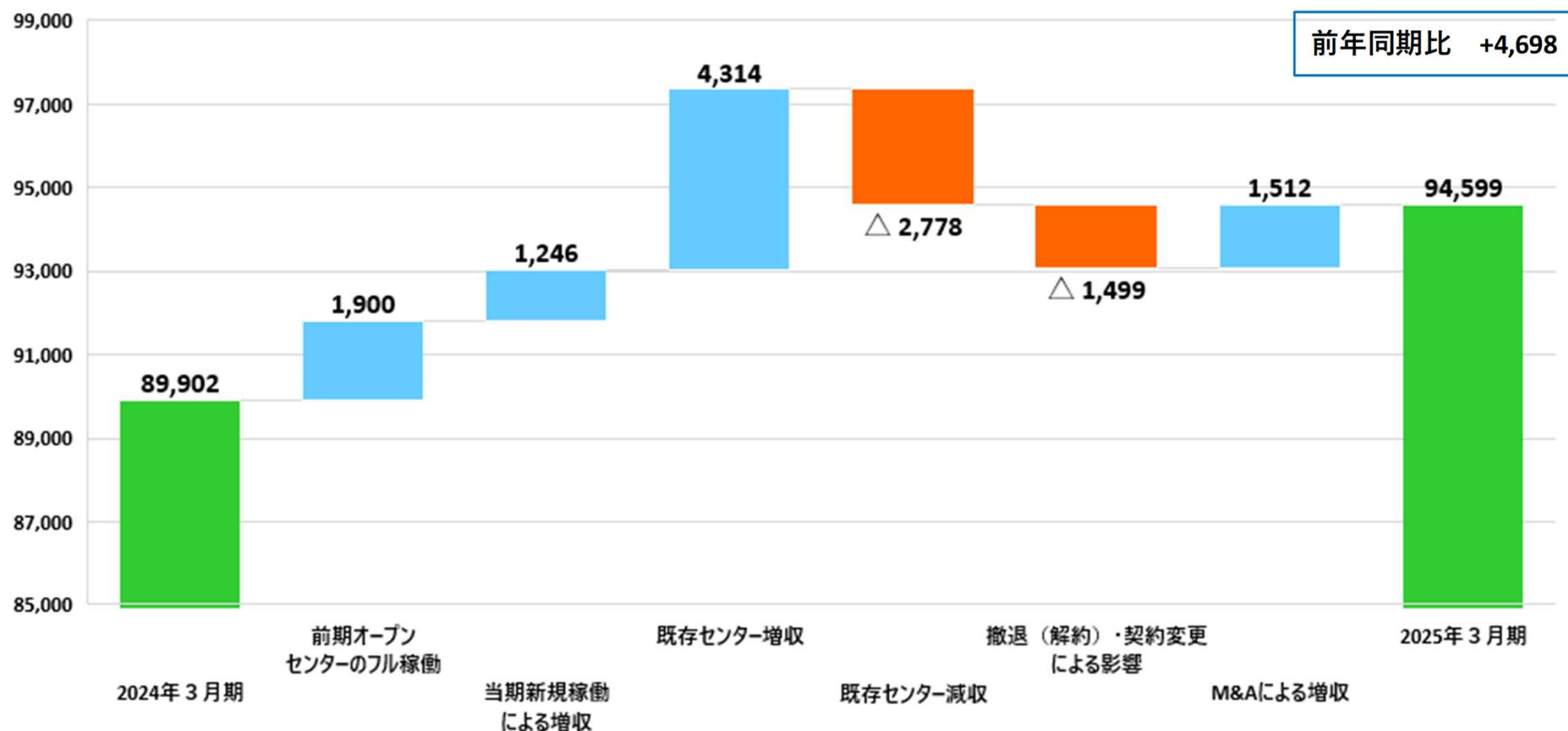
営業収益の推移



I-4. 物流センター事業(3PL)の概況

営業収益の状況

(百万円)



I-5. 物流センター事業の稼働状況

●新規受託及び稼働

取扱品目	前期受託 未稼働	当期 受託	稼働	当期 未稼働	memo
フード	2社	1社	3社	-	
アパレル		2社	2社	-	
ホームケア		6社	6社	-	
メディカル/ヘルスケア	2社	6社	7社	1社	
その他		1社	1社	-	
計	4社	16社	19社	1社	



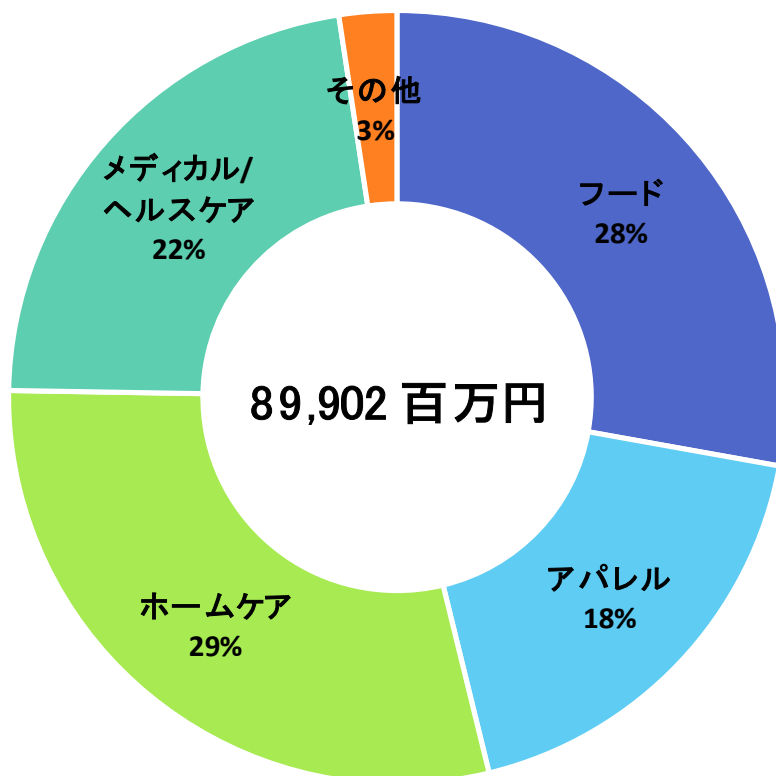
●物流センター数

2025年3月31日現在

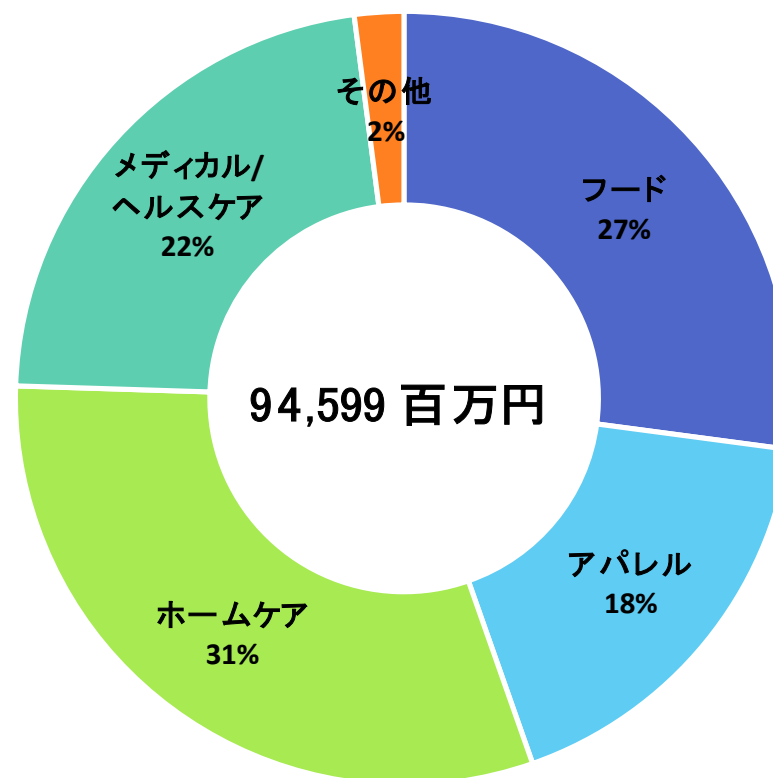
自社センター	58	(580,302m ²)
借用センター	135	(1,019,588m ²)
計	193	(1,599,890m ²)

I-6. 物流センター事業の取扱品目別売上高

2024年3月期



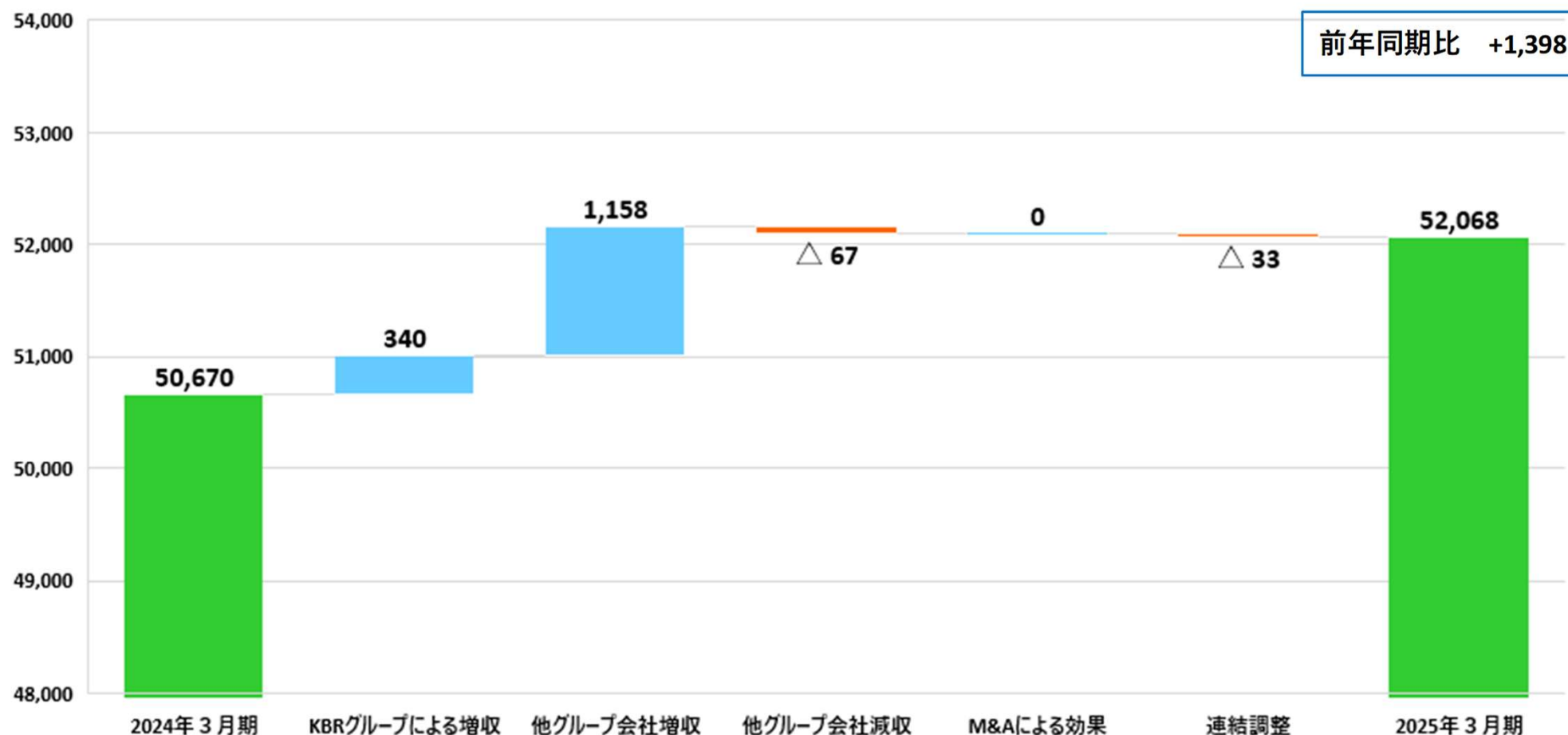
2025年3月期



I-7. 貨物自動車運送事業の概況

営業収益の状況

(百万円)



※KBRグループとは、近物レックス(株)とその子会社4社です。
(都運輸(株)、三重近物通運(株)、茨城県貨物自動車運送(株)、(株)エービーエクスプレス、(株)Masse)

Ⅱ. 2026年3月期計画

Ⅱ-1. 2026年3月期 業績予想

(百万円)

	連結業績	
	計画	前期比 (増加率)
営業収益	153,000	+6,331 (+4.3%)
営業利益	13,900	+686 (+5.2%)
経常利益	15,000	+720 (+5.0%)
親会社株主に帰属 する当期純利益	9,400	+468 (+5.2%)
設備計画	12,000	***

(百万円)

セグメント別業績予想

		計画	前期比	(増加率)
物流センター事業	営業収益	98,500	+3,900	(+4.1%)
	営業利益	12,200	+465	(+4.0%)
貨物自動車 運送事業	営業収益	54,500	+2,431	(+4.7%)
	営業利益	1,700	+242	(+16.6%)

Ⅱ-2. 経営指標

	2022/3	2023/3	2024/3	2025/3	2026/3予想
1株当たり当期純利益(円) 〔EPS〕	94.71	98.48	110.64	120.13	126.43
自己資本当期純利益率(%) 〔ROE〕	10.3	9.9	10.3	10.3	10%以上
営業収益経常利益率(%)	9.6	9.3	9.3	9.7	9.8

※自己資本当期純利益率(ROE)は、10%以上を継続的に達成することを目指してまいります。

※当社は2024年10月1日付で1株につき4株の割合で株式分割を行っております。2022年3月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり当期純利益を算出しております。

1株当たり配当金 (円)

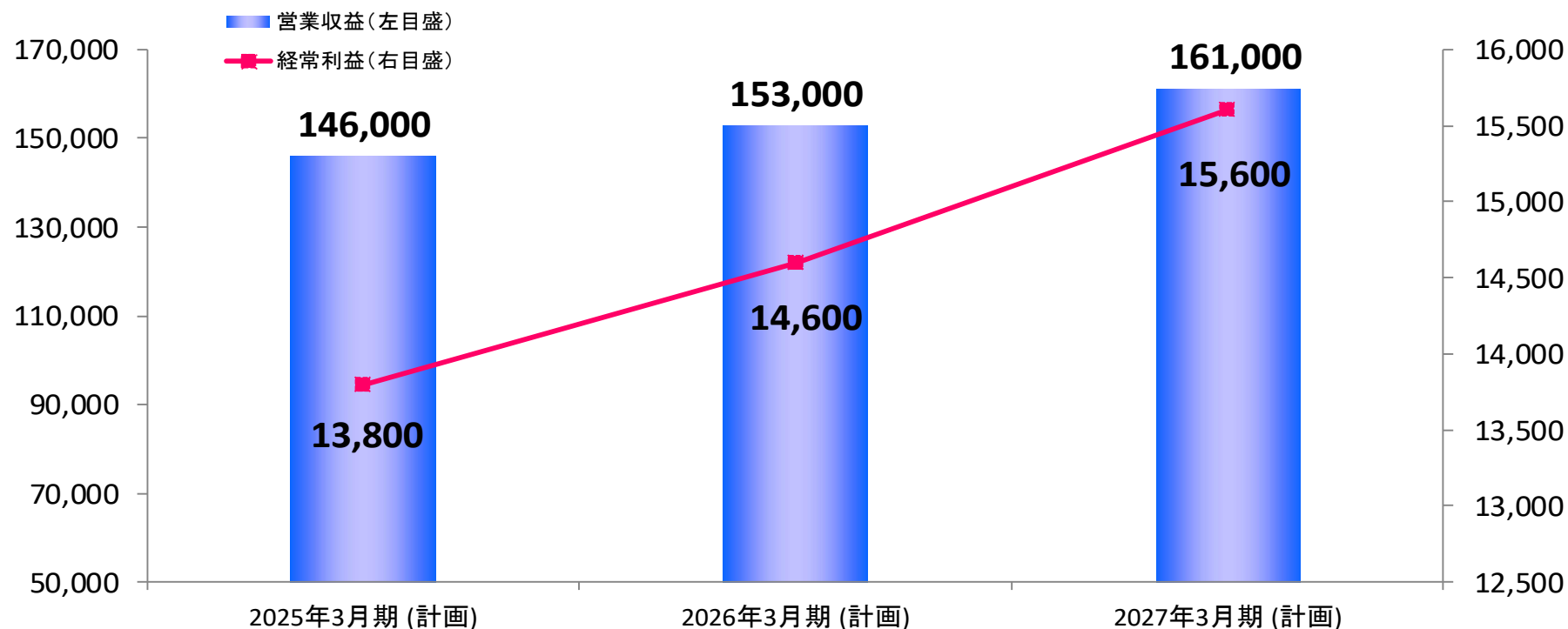


※当社は2015年9月1日をもちまして、普通株式1株につき2株の割合にて株式分割を行っております。また、2024年10月1日付けで普通株式1株につき4株の割合で株式分割を行っております。そのため、2006年3月期の期首に当該株式分割が行われたものと仮定して配当金を算出しております。

Ⅱ-3. 中期経営計画

(百万円)

	2025年3月期 (計画)	2026年3月期 (計画)	2027年3月期 (計画)
	連結	連結	連結
営業収益	146,000	153,000	161,000
経常利益	13,800	14,600	15,600
親会社株主に帰属する 当期純利益	8,600	9,050	9,650
1株当たり当期純利益	114.56	120.55	128.55
営業収益経常利益率	9.5%	9.5%	9.7%
設備投資計画	120億円	120億円	120億円



※2024年10月1日付で普通株式1株につき4株の割合で株式分割を行っております。
上記中期経営計画の1株当たり当期純利益は当該株式分割の影響を考慮しております。

Ⅱ-4. 今後の取り組み

1. 3PL事業を軸とする事業展開

- ・積極的な設備投資
- ・物流センターのDX化、省人化
- ・EC物流の拡大（ラストワンマイル）と自社配送の取り組み

2. 3PL事業とグループ会社の融合

- ・近物レックスの貨物ターミナルを物流センター化
- ・3PL配送のグループシナジーを強化

3. 新規顧客獲得に向けた取り組み

- ・3PL新規受託件数年間目標15社
- ・国内の顧客満足度を向上させるため、ニーズに応じた海外展開

4. 貨物自動車運送事業の取り組み

- ・物量増加の取り組み
- ・労働環境改善、運賃是正の取り組み

5. M&Aの継続

- ・3PL事業、貨物自動車運送事業においてシナジー効果を創出できるM&Aの取り組み

6. ESGの取り組み強化

- ・CO₂排出量削減、SDGsの推進



Ⅲ. 2025年3月期 決算実績

Ⅲ-1. 四半期会計期間別(3ヶ月)の業績推移

(百万円)

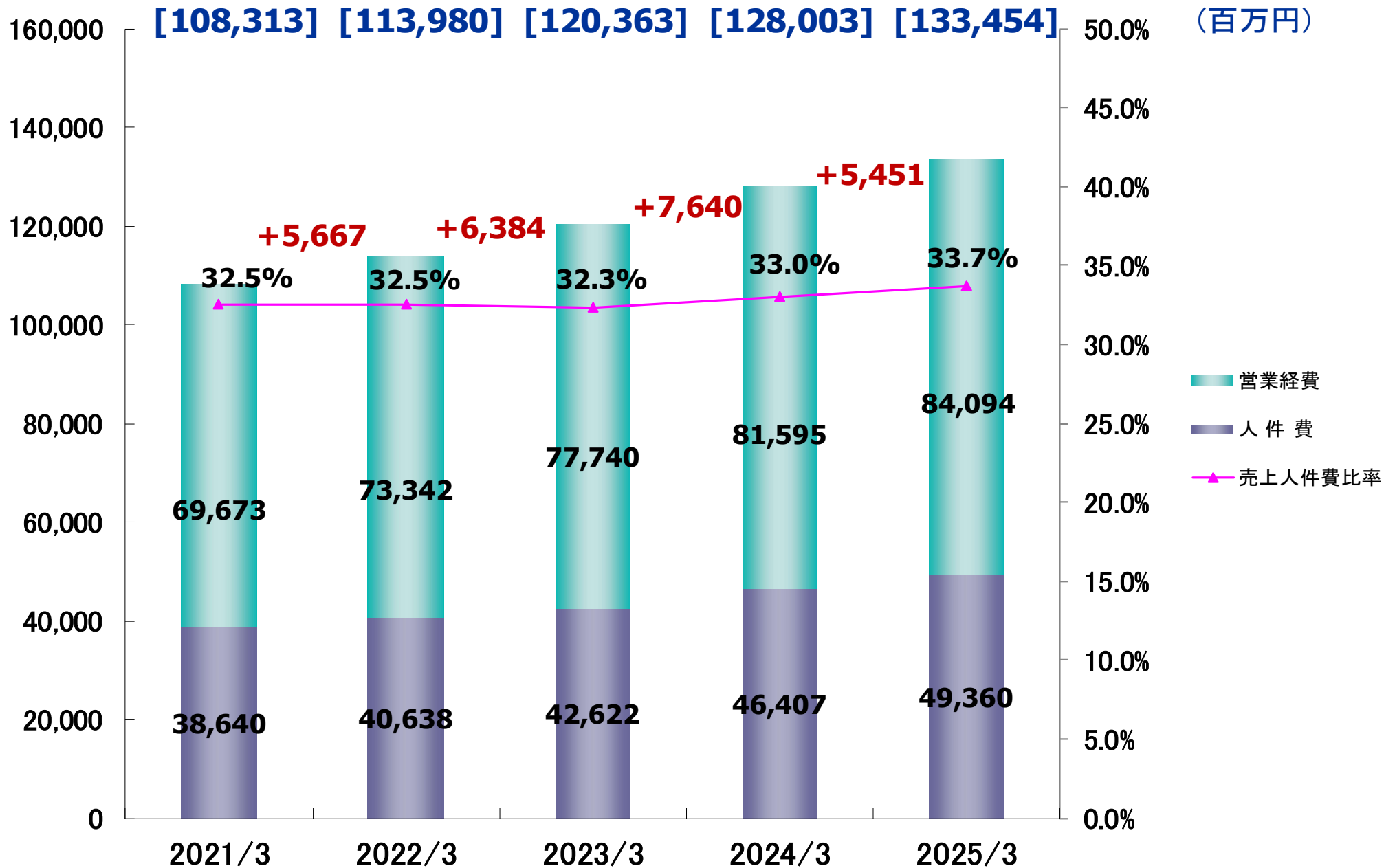
	第1四半期		第2四半期		第3四半期		第4四半期	
	当期実績	前期比 (増減率)	当期実績	前期比 (増減率)	当期実績	前期比 (増減率)	当期実績	前期比 (増減率)
営業収益	35,744	+2,651 (+8.0%)	36,452	+2,181 (+6.4%)	38,781	+1,086 (+2.9%)	35,689	+175 (+0.5%)
営業利益	3,278	+331 (+11.3%)	3,170	+476 (+17.7%)	4,166	+11 (+0.3%)	2,598	△176 (△6.3%)
経常利益	3,567	+380 (+11.9%)	3,389	+513 (+17.9%)	4,312	+229 (+5.6%)	3,008	+19 (+0.6%)
親会社株主に 帰属する 当期純利益	2,152	+241 (+12.7%)	2,131	+286 (+15.5%)	2,595	+198 (+8.3%)	2,052	△101 (△4.7%)

Ⅲ-2. セグメント別四半期会計期間(3ヶ月)の業績推移

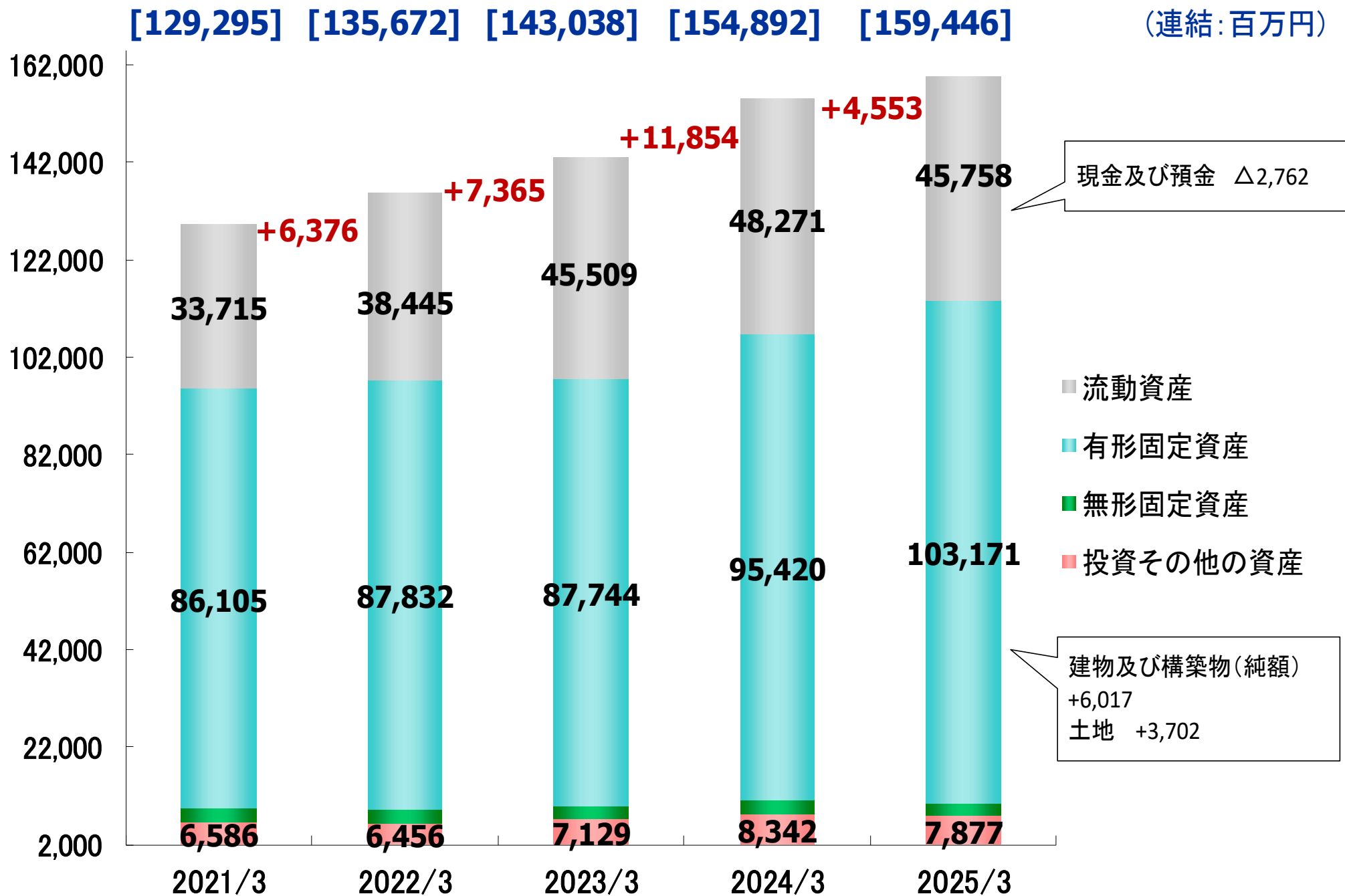
(百万円)

		第1四半期		第2四半期		第3四半期		第4四半期	
		当期実績	前期比 (増減率)	当期実績	前期比 (増減率)	当期実績	前期比 (増減率)	当期実績	前期比 (増減率)
物流センター	営業収益	22,762	+2,137 (+10.4%)	23,589	+1,838 (+8.5%)	25,155	+749 (+3.1%)	23,091	△27 (△0.1%)
	営業利益	2,874	+245 (+9.4%)	2,775	+419 (+17.8%)	3,642	+386 (+11.9%)	2,442	+41 (+1.7%)
貨物自動車運送	営業収益	12,982	+514 (+4.1%)	12,862	+343 (+2.7%)	13,625	+337 (+2.5%)	12,598	+203 (+1.6%)
	営業利益	402	+86 (+27.2%)	384	+48 (+14.3%)	519	△378 (△42.1%)	151	△221 (△59.4%)

Ⅲ-3. 経費・人件費



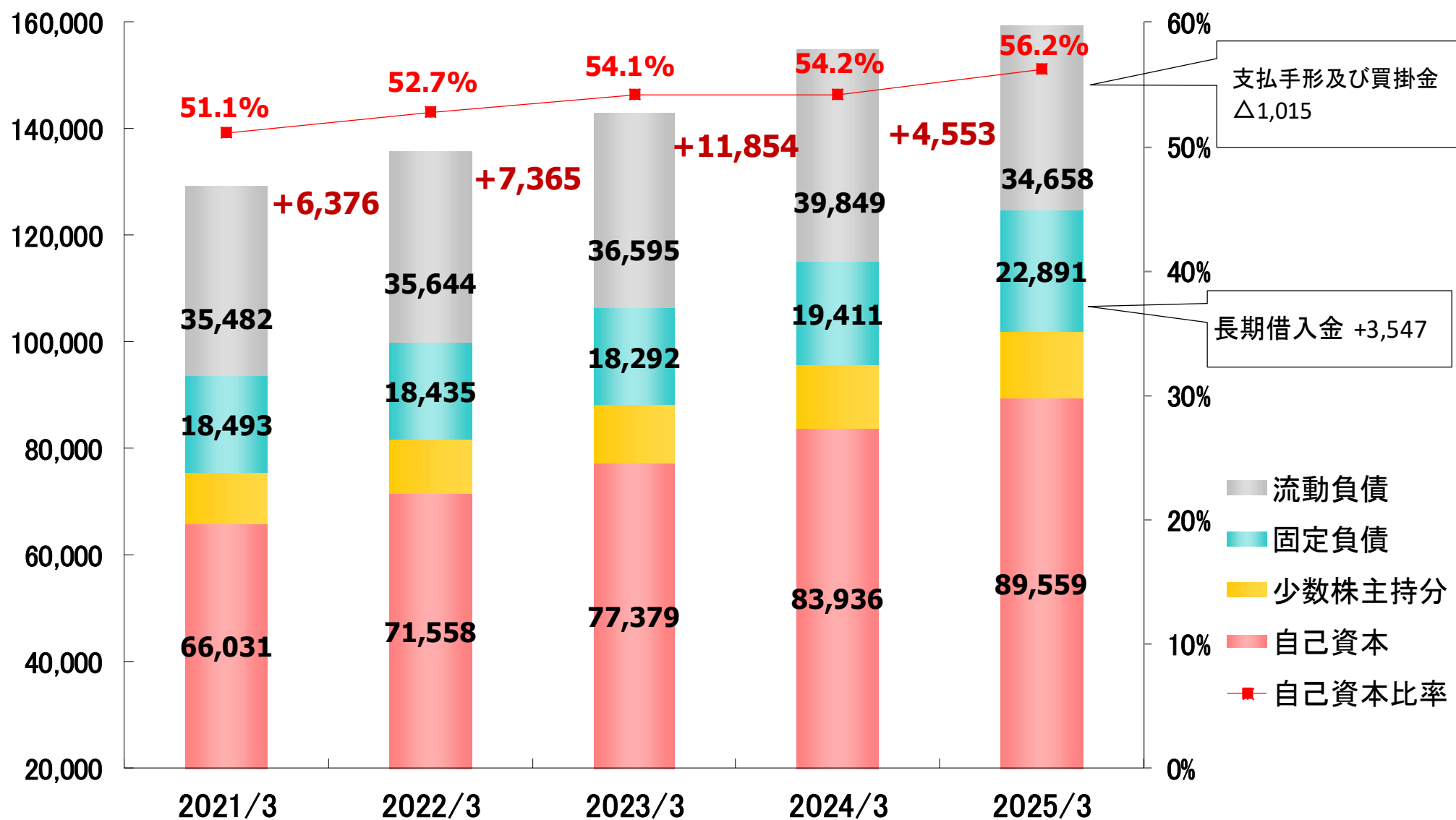
Ⅲ-4. 貸借対照表＜資産＞



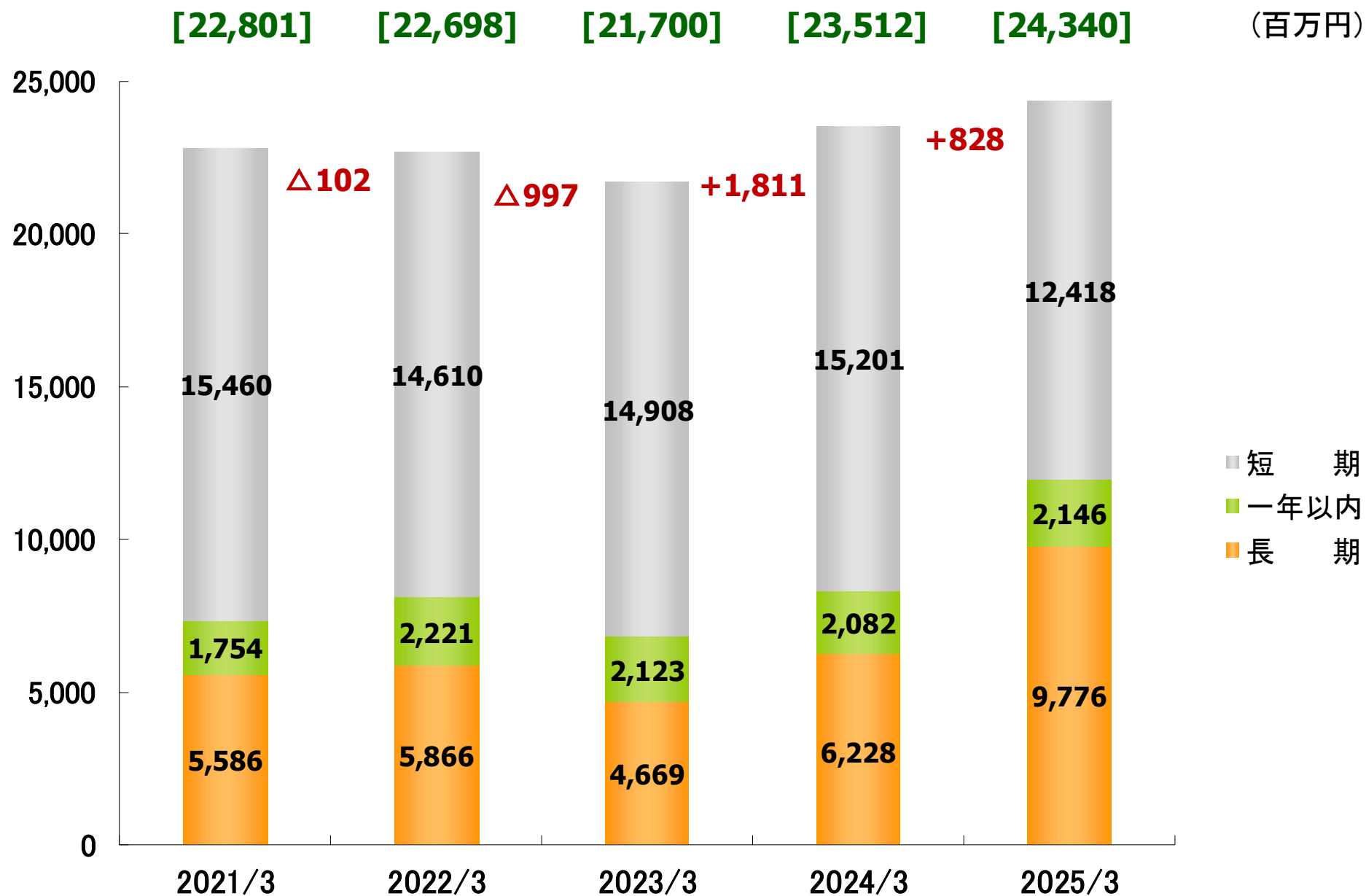
Ⅲ-5. 貸借対照表＜負債・純資産＞

[129,295] [135,672] [143,038] [154,892] [159,446]

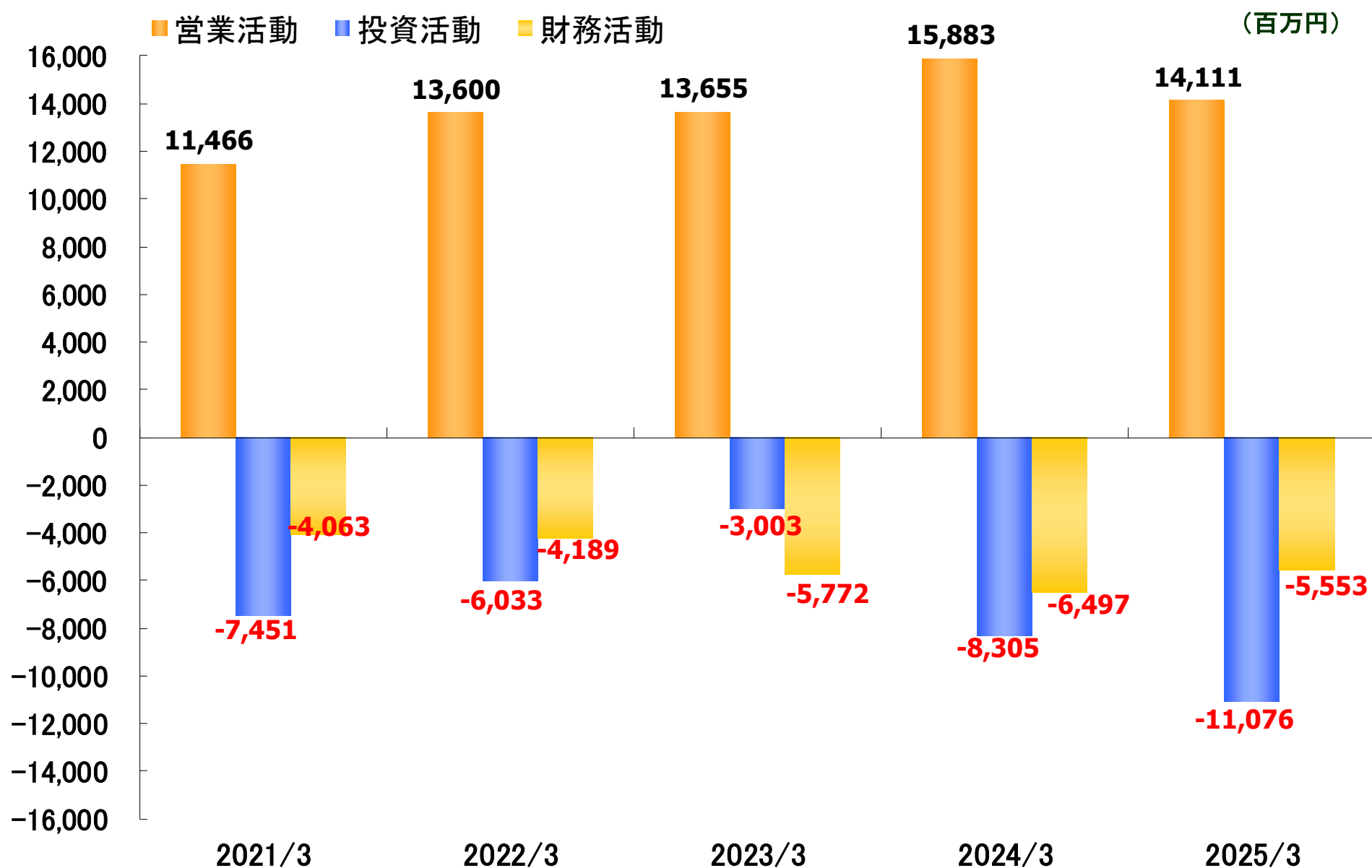
(連結:百万円)



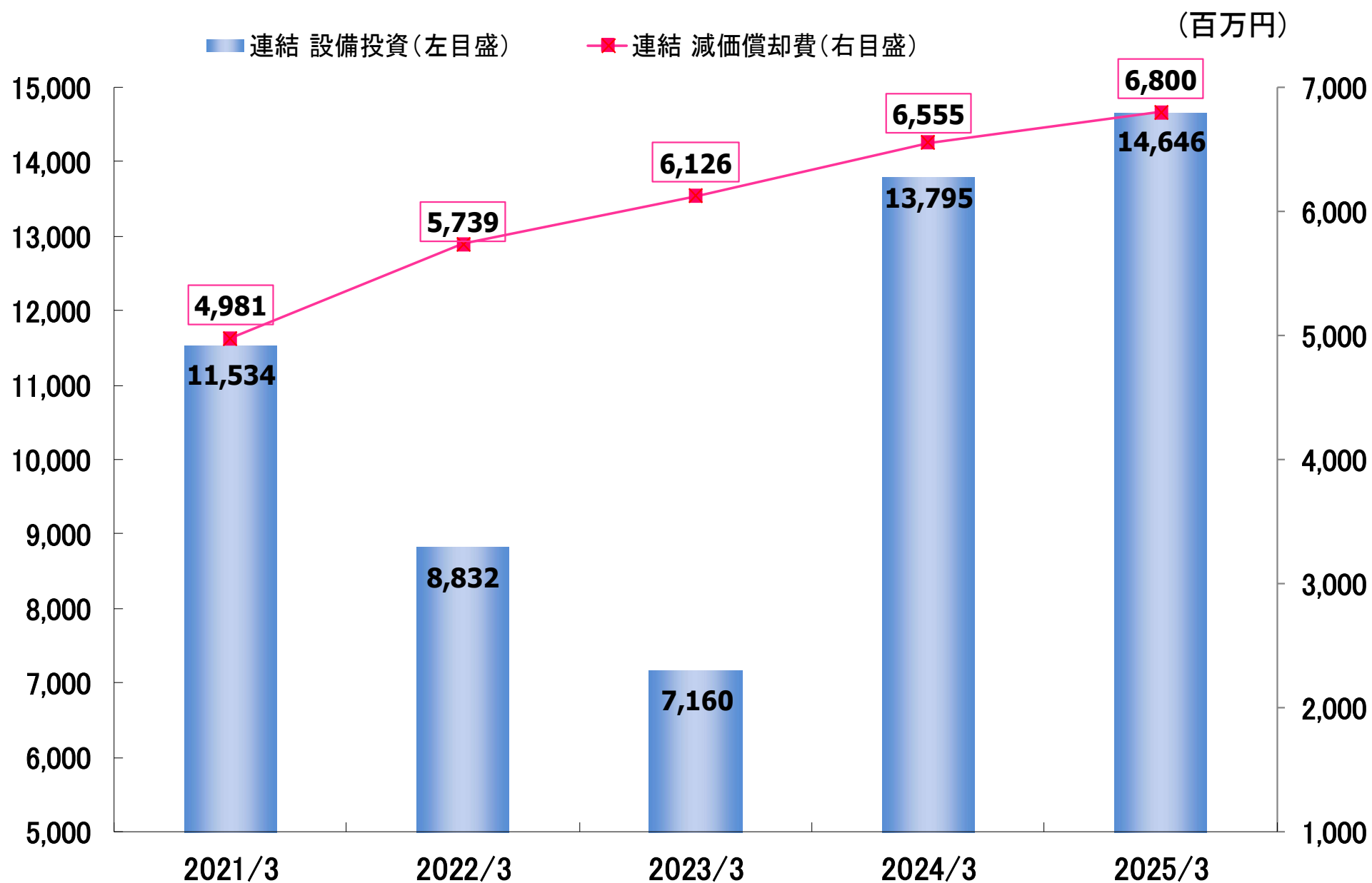
Ⅲ-6. 有利子負債（借入金）



Ⅲ-7. キャッシュ・フロー



Ⅲ-8. 設備投資・減価償却費



IV. 近物レックスの現況と 今後の戦略

IV-1. 近物レックス 2025年3月期業績

	実 績			
	2023/3	2024/3	2025/3	前期比 (増減率)
営業収益	37,179	37,496	37,890	+393 (+1.1%)
営業利益	561	825	278	-546 (-66.3%)
経常利益	665	702	401	-301 (-42.9%)

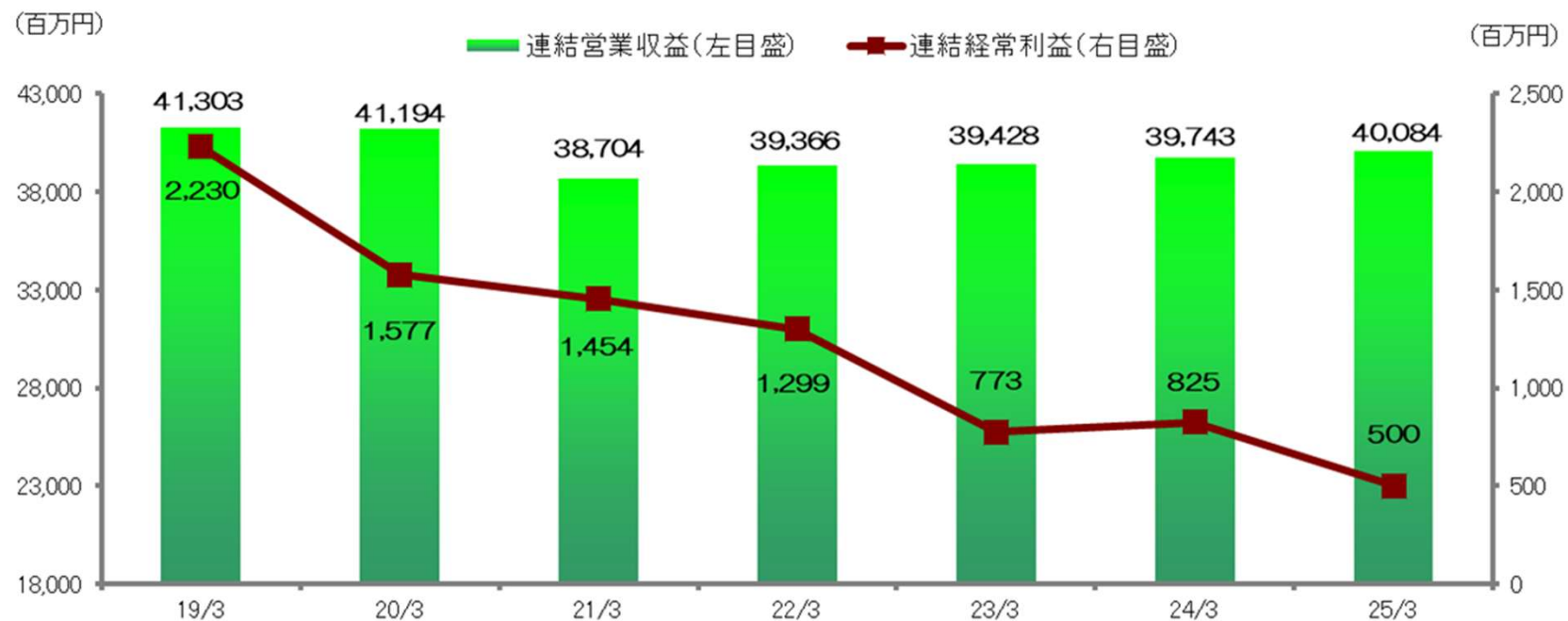
IV-2. 近物レックス 業績推移

(百万円)

	近物レックスグループ(連結子会社含む)						近物レックス単体	
	2021/3	2022/3	2023/3	2024/3	2025/3	増減額 (率)	2025/3	増減額 (率)
営業収益	38,704	39,366	39,428	39,743	40,084	+340 (+0.9%)	37,890	+393 (+1.1%)
営業利益	1,436	1,167	659	942	364	-577 (-61.3%)	278	-546 (-66.3%)
経常利益	1,454	1,299	773	825	500	-325 (-39.4%)	401	-301 (-42.9%)
当期純利益	954	884	497	545	330	-214 (-39.4%)	289	-164 (-36.2%)

※近物レックスグループ: 近物レックスの直接子会社を含めた連結数値となります。

IV-3. 近物レックス収益構造



	連結業績	個別業績
営業収益	増収	増収
営業利益	減益	減益
経常利益	減益	減益
当期純利益	減益	減益

IV-4. 近物レックスの2024年度成果

1. 収益性の向上

- ・売上確保
- ・課題店所の収支改善

2. 安全と法令順守

- ・3大事故の撲滅（車両・商品・労災）
- ・法令遵守
- ・社内ルールの厳正化

3. 雇用推進

- ・採用強化（社員紹介制度・正社員募集）
- ・ドライバー確保
- ・社員教育の実施

4. 設備投資・その他

- ・設備投資（車両・店舗建替）
- ・借入返済



IV-5. 近物レックスの2025年度取組み

1.収益性の向上

- ・売上確保
- ・適正運賃收受
- ・貸切部門の輸送形態構築
- ・3PLの拡大
- ・内製化（効率化）

2. 安全と法令順守

- ・3大事故の撲滅（車両・商品・労災）
- ・法令遵守
- ・内部監査の継続

3.雇用確保

- ・採用強化
- ・ドライバー確保
- ・社員教育の実施

4.設備投資

- ・設備投資（車両・店舗改修）
- ・借入返済



IV-6. 近物レックスの2025年度取組み

貸切部門の輸送形態構築・3PLの拡大

新規部署の立ち上げ

具体的に選抜チームによる専門部署を立ち上げ、近物レックスの**新セグメント設立**を目指します！

近物レックスの貸切収入は積合収入顧客からの派生であり、貸切市場に参入しているとはいえない状況です。

貸切収入拡大には、貸切に特化した顧客の発掘が必要、

かつ効果的であることから、新体制では営業部とは別の**“事業開発部”**という**専門部署**を立ち上げました。

従来専門的に担当と特化してきた社員を選抜し、スピード、効果を最大限に発揮できるような社内環境を整えるとともに、受託消化についても既存戦力で補えるように担当者を置いて内製化を図り、収益性を向上させます。

従来行っている3PL事業については、路線事業が主たる支社に管理を一任していたことから、拡大に至っていない状況です。

3PL事業所を本社に集約、専門担当者を置くことで、**ハマキョウグループとのシナジー効果**を目指します。

※既に数件の案件が進行中です。

新規部署		部門	主たる役割	担当者選抜条件
事業開発部	>>>	広域担当	>>> 全国支社を跨ぐ営業開発。	全社共通顧客との渉外活動に長年従事している担当者を選任。
		3PL担当	>>> ホームセンター顧客、医療用包装材料生産顧客、香辛料メーカー他、3PL事業の収益性の追求。	顧客より生産性を評価されている担当者を選任。
		貸切担当	>>> 既存積合事業からの派生でなく、貸切事業顧客に特化。積合事業での余剰戦力で収益を拡大。	広域担当からの案件を消化する戦力を運行、集配、業務より抽出すべく、各事業所と調整をするために、運行担当者を選任。
		システム担当	>>> 全社運用システム（基幹）の構築、見直し、新規事業におけるシステム開発。	現システム部の選抜を配置。

V. 参考情報



「物」に携わる者として、

「人と接するときは、**心**を込めて」

「仕事をするときは、**初心**を忘れず前向きに」

「物を扱うときは、**心**を込めて丁寧に」

「物を運ぶときは、**心**を込めて安全に」

「如何なるときにも感謝の**心**を大切に」

を基本テーマに取り組んでおります。

物流の役割は駅伝でいえば最終ランナー、
地味ではあるが信頼された重要な存在。

当企業グループは信頼に応えて効率的な事業活動の展開と継続的で質の高い成長を図り、お客様第一、品質第一を基本に、企業としての社会的責任を果たしてまいります。

また、短期的な収益にとらわれず、長期的な視点に立った経営を行い、3PL物流における質的内容の日本一を目指します。



会社概要（2025年3月31日現在）

●	社名	株式会社ハマキョウレックス (HAMAKYOREX CO., LTD.)
●	設立	1971年2月
●	資本金	65億47百万円
●	決算期	3月31日
●	従業員数	連結 5,813名
●	発行済株式数	76,048,000株
●	株主数	5,769名
●	事業内容	物流センター事業（3PL）、貨物自動車運送事業
●	連結子会社	34社
●	売上高	連結 1,466億68百万円
●	経常利益	連結 142億79百万円

当社グループは、
物流センター事業と貨物自動車運送事業を中心に
展開しております。



V-5. 物流センター事業

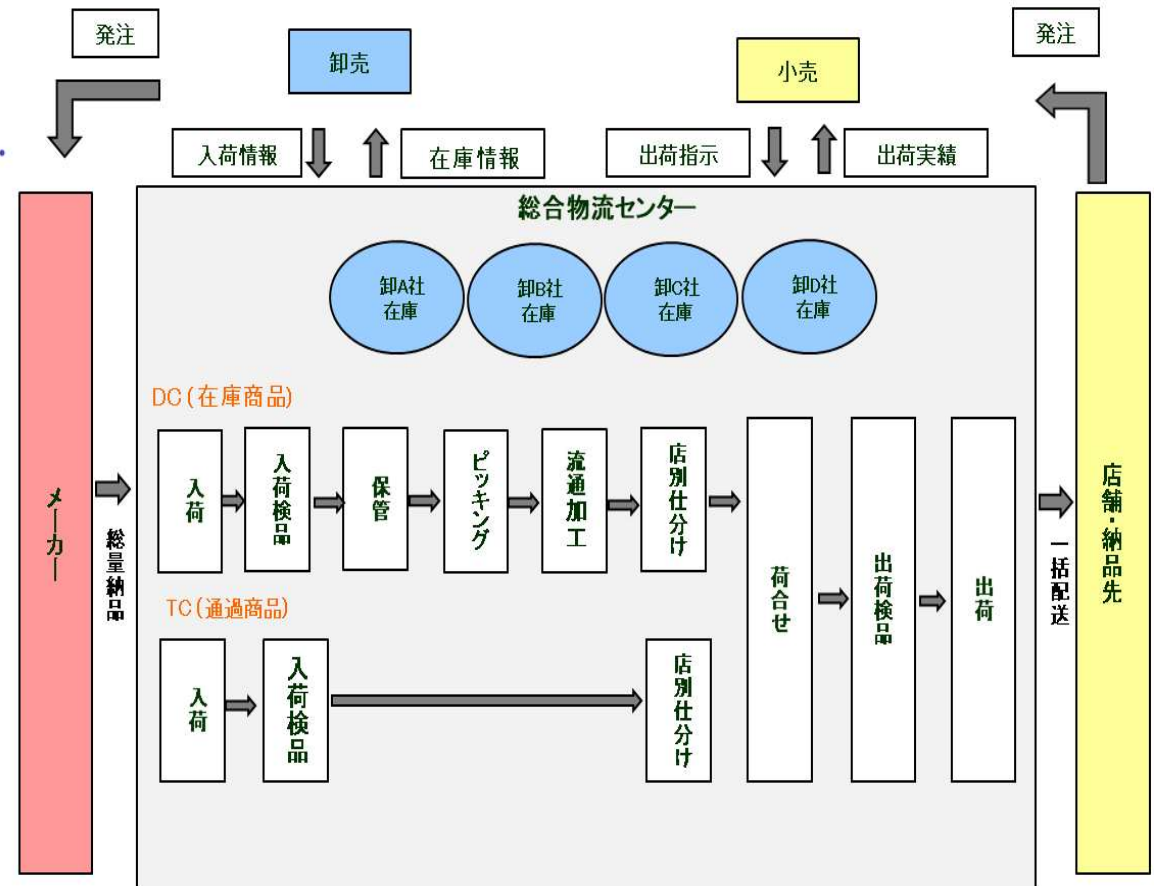
当社は3PL(3rd Party Logistics)をおこなっております。

3PLとは、『荷主様に対して物流改革を提案し包括して物流業務を受託すること』であり、一般的には、『荷主様が物流業務を外部委託(アウトソーシング)すること』を指します。

3PLの主な目的は、「物流コスト削減」「戦略的ロジスティクスの構築による利益追求」です。

お客様にとって最適な物流通をご提案し、「物流を通じてお客様へ利益を還元する」ことが最も重要な役割であると考えております。

物流センター事業例
～在庫保管型センター(DC)の場合～

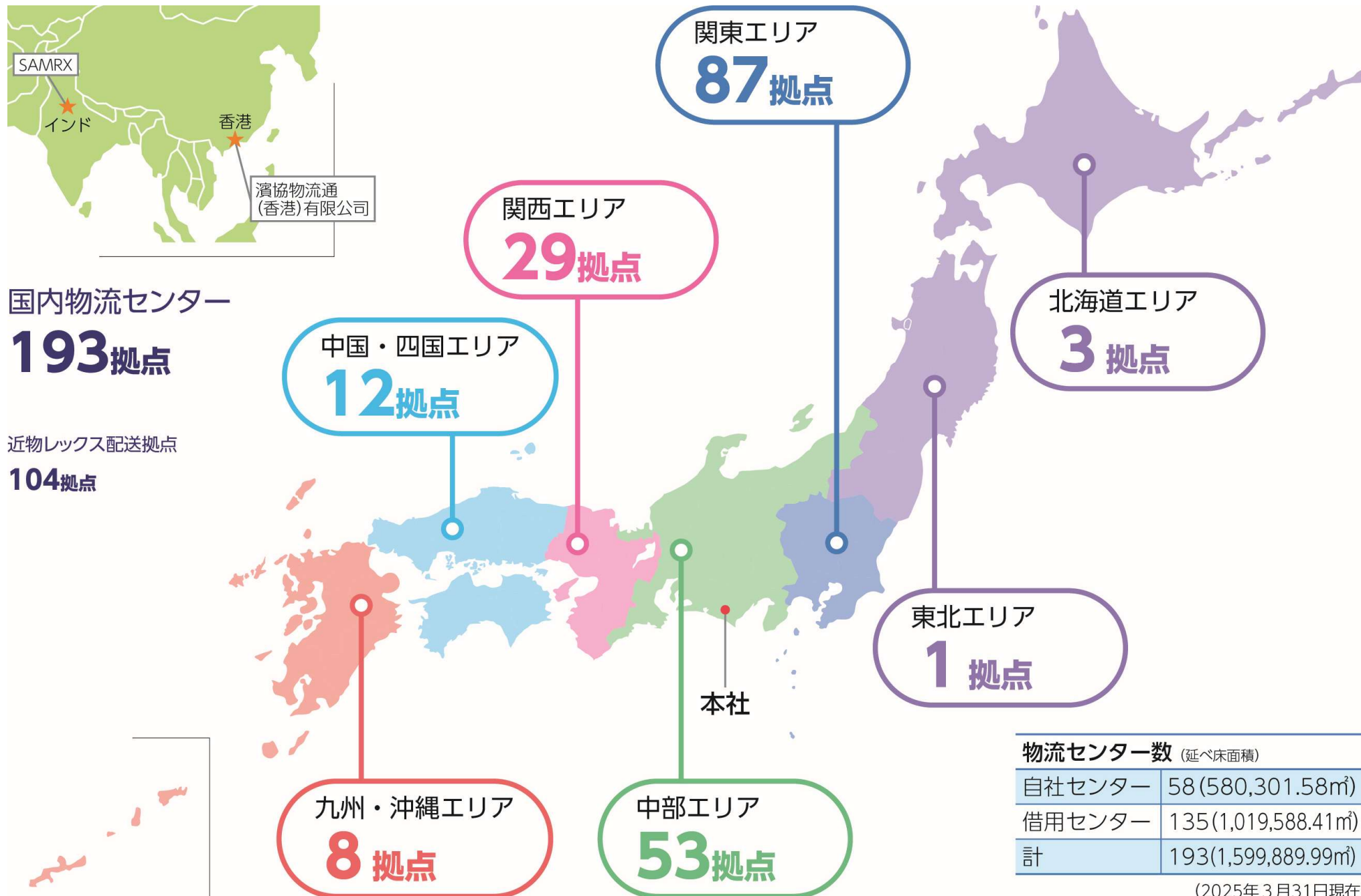


コスト競争力 現場力

当社は、「**コミュニケーション**」を重要視し、社員・パート・アルバイトを含めた「**全員参加**」による現場主導での自社運営を実施。「**日計収支※1**」・「**生産性向上**」によるコスト削減を荷主様へ提案し、物流費削減を支援いたします。

※1 日計収支とは、各拠点で、日々決算を行い、その日1日の損益を把握する仕組みです。これにより、その日の問題点を翌日の改善につなげ、日々の無駄なコストを削減していくための当社の仕組みであります。

V-7. 拠点紹介



IR関係問合せ先・担当者

- 執行役員
管理本部長兼経営企画室長 竹内 義之
 - 経営企画室次長 河島 康男
- TEL 053-444-0054



将来見通し等に関する注意事項

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。

本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。

また、業界等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、お客様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。